

# 山岳協会

## 昭和 28 年(1953 年)創立

### 【あゆみ】

平成 15 年（2003 年）11 月 29 日～30 日、箱根高原ホテルにおいて創立 50 周年の記念式典と祝賀会を行なってから今年で 5 年が経過した。

前身は、昭和 28 年（1953 年）5 月茅ヶ崎スキー山岳協会が発足で、昭和 29 年（1954 年）、第 10 回神奈川国体のため、神奈川県スキー山岳連盟がスキーと山岳が発展解消したのを受けて、茅ヶ崎スキー山岳協会もスキーと山岳に分離独立し、それぞれの道を歩み平成 20 年現在創立 55 年を迎えた。

昭和 40 年（1965 年）当時加盟団体が 5～6 団体あったが、現在は茅ヶ崎山岳会と市役所山岳部の 2 団体で、OB 会員を入れても 50 名ほどの小さな団体である。

### 【活動内容】

山岳協会は創立当時の目的である、安全登山の普及と啓発、加盟団体相互の親睦と技術の向上を目的とした事業を行っている。

生涯スポーツとして市民を対象とした活動は昭和 30 年以前から始まっている、今年で 51 回を数えた市民富士登山は、全員登頂を目的とし 7 合目で 1 泊してゆっくり登るので小学生 4 年から参加可能であり、毎年ほとんどの参加者が登頂をはたしている。

また、丹沢や箱根の近場をベースに春・秋の

市民ハイキング、春・秋の市民沢登り教室など実施している。市の広報を通じて毎年多くの参加者がある。

平成 15 年（2003 年）よりはじめた「子供アドベンチャー体験キャンプ」は平成 20 年（2008 年）で第 6 回を迎えた。後継者の養成（種まき）と自然の中でスポーツや生活技術を通して自立、協調、思いやり、団結等人生で必要なものを学んで欲しいという思いで実施している。募集対象が小学 4 年～中学 1 年の子供たちだけの参加という事もあるのか、特に平成 20 年（2008 年）度は 3 泊 4 日ということもあり、参加人数が少なく中止となり残念であった。平成 21 年（2009 年）は、PR の方法なども合わせて考えながら続けていきたい。

昭和 30 年代中頃から始まった知的障害者施設「平塚進和学園」の富士登山（最近は大山登山）にボランティアで参加している。指導者としてよい体験の場となっている。

山岳競技としての活躍は、国体山岳競技が主で協会創立当時から多くの人が出場している。昭和 30 年（1955 年）第 10 回神奈川国体当時は「登山部門」で公開競技であった。昭和 46 年（1971 年）第 26 回和歌山国体で「山岳競技」へ名称変更、昭和 55 年（1980 年）第 35 回栃木国体より正式種目となる。平成 10 年（1998 年）第 53 回神奈川国体で

は、縦走・踏査・登攀の3種目の競技が成年男女、少年男女の4種別で実施され、当協会の選手が出場して入賞、男子総合2位で天皇杯に貢献、それから10年間当協会選手達が連続出場を果たし上位入賞している。国体山岳競技は国体改革の対象になり、平成14年第57回高知国体で踏査競技が廃止になり、今年平成20年(2008年)第63回大分国体から縦走競技がなくなり、クライミング競技だけになった。これは人工壁を使って到達高度を競うリード競技と、複数のボルダー(課題)を登りそれらの達成に要した試登数をもとに算出したポイントを競うボルダリング競技の2種目で行われる。「山岳競技」が屋内競

技になり非常に残念であり、今後自然の中で行う競技の復活を期待したい。

少子高齢化が言われてから久しいが、山岳協会も会員の減少と高齢化が進み例外ではない。山岳協会の維持・継続は現役会員の使命であり、一致団結して社会のニーズに対応した事業展開もしていかなければならない。今後、中高年登山愛好者を対象に登山教室の開催、青少年向けに「アウトドアライフ」教室などを実施して協会の活性化と仲間づくりを進めていきたいと考えている。

今後とも各方面からのご支援、ご協力をお願いいたします。

#### 歴代会長

会 長	石田 久夫	昭和 28 年 (1953 年) ~平成 3 年 (1991 年)
	菊池 徳丸	平成 4 年 (1993 年) ~平成 10 年 (1998 年)
	大森 正美	平成 11 年 (1999 年)
	新倉 豊	平成 12 年 (2000 年) ~平成 19 年 (2007 年)
	水島 彰治	平成 20 年 (2008 年) ~



(平成 15 年 (2003 年) 11 月 29 日創立 50 周年記念式典)